

令和3年度 学校関係者評価報告書

学校法人 食糧学院
東京栄養食糧専門学校

学校法人食糧学院 東京栄養食糧専門学校
学校関係者評価報告書

自己点検・自己評価実施委員会が作成した「令和3年度自己点検・自己評価報告書を基に学校関係者評価」を行いました。その結果を以下の通り報告いたします。

- 1.開催日時 令和4年2月18日(金) 17:00~19:00
- 2.開催場所 本館二階 会議室
- 3.委員 (1) 学校関係者評価委員
- | | | |
|--------|-----------------------|----------------|
| 寺嶋 利行 | 一般社団法人 F L A ネットワーク協会 | 事務局長 |
| 粕谷 正幸 | 株式会社ケアサービスひかり | 代表取締役社長 |
| 大木 いづみ | 慶応義塾大学病院 | 食養管理課 課長 |
| 青地 克頼 | 聖徳大学人間栄養学部 | 教授 |
| | 日本健康運動指導士会 | 会長 |
| 渡邊 智子 | 東京栄養食糧専門学校 | 校長 |
| 金澤 敏文 | 東京栄養食糧専門学校 | 教務部 部長 |
| 舩木 潤 | 東京栄養食糧専門学校 | 総務部 部長 |
| 鈴木 健一 | 東京栄養食糧専門学校 | 教務部 就職進路支援課 課長 |
- (2) 事務局
- | | | | |
|-------|------------|--------------|----------|
| 河井 義幸 | 東京栄養食糧専門学校 | 教務部 教務学生課 課長 | 職業実践教育担当 |
| 國井 規代 | 東京栄養食糧専門学校 | 教務部 教務学生課 | 主事 |

4.会議の概要

- (1) 理事長挨拶
- (2) 校長挨拶
- (3) 議長選出
- (4) 「令和3年度自己点検・自己評価」報告書の説明と評価
- (5) 令和3年度職業実践教育推進活動状況について
- (6) 令和3年度および次年度に向けて、より実践的な職業教育を行うにあたっての提案事項
- (7) その他

令和3年度 学校関係者評価結果

(学校関係者評価委員会実施日：令和4年2月18日)

学校法人 食糧学院 東京栄養食糧専門学校

大項目	学校関係者評価
<p>基準1 教育理念 目的・育成人材像</p>	<p>本校は「専門教育に誇りを持ち、社会から信頼される教育機関を目指すと共に社会から高い評価を得られる学術・技能に優れた人材の育成に努める」ことを教育の理念・目標に掲げ、社会に貢献できる栄養士・管理栄養士の育成に努めている。具体的には「栄養士・管理栄養士が持つべく基本的スキルである調理技術や身体状況に見合う献立作成技術の習得、更には栄養指導、栄養教育に不可欠な他人を思いやる豊かな人間性の涵養」を周知しているところである。</p> <p>栄養士科は5コース（健康増進栄養系、医療・福祉系、こども・食育系、健康・美容系、食品開発系）管理栄養士科は2コース（医療・福祉栄養系、健康・食育栄養系）のコース制を導入し、将来を見据えた専門性を磨くことができる。また、実学教育を実施すべく、カリキュラムに実習・実験・演習を多く取り入れ、アクティブラーニングを推進している。中長期的構想の中で、栄養士科、管理栄養士科の卒業生が学んでも遜色のない新学科「健康スイーツ研究科」の設立をした。</p>
<p>基準2 学校運営</p>	<p>年度当初に策定した事業計画・予算案に基づき、理事会や定例会議（学院センター管理職会議、本校運営会議・教職員会議等）において学校運営の進捗状況、課題（問題点）等を提起、或いは報告し、教職員全体が把握できるようにしている。教職員間のコミュニケーション手段の一助としてインフラの整備が進み、学校運営に対する情報の共有化が容易となる中、学院本部や広報室、キャリア支援室との連携をより密にして、更なる情報の共有化・事務処理の効率化を図っている。基準2について以下の【質問・提案】があった。</p> <p>【質問・提案】</p> <p>①倫理審査があった方が良いのではないかと。また、紀要委員会を新設したということで、具体的な内容について教えていただきたい。</p> <p>②学術的なものではなくても、調理実習風景を撮影し、配信することで復習することで学習効果があったという話も聞きますが、まとめることや、そういう雰囲気、モチベーション作りが今後は必要ではないでしょうか。</p> <p>③食と健康のスペシャリストを特徴とした学生のみならず、社会人の入学者を確保するという点から、少子化・超高齢化社会の中で、やはり社会に向けて、食と介護をテーマとした一般教養を取得するための講座等を検討し、興味深いテーマを開設できればと良いのではないかと。</p> <p>【回答】</p> <p>①紀要委員会と並行して倫理委員会というのも立ち上げた。また動物実験部門を立ち上げたので、その紀要や学生の卒業論文などは、その倫理委員会を通してから作業を行っている。本校で紀要委員会を作り、その中で論文を募集し、そこで紀要としてあげると言うような、トレーニングに近いところから始めていければと考えている。ある程度形になってきたら、定期的な発刊を考えている。</p> <p>③今年の夏に実施した教職員研修で、食と介護をテーマにした研修を行った。まずは、教職員の意識のフォローアップを行った。学生には、これから同職種の方に特別講義や授業の中の一コマとして、授業を入れるなどで対応していきたい。</p>
<p>基準3 教育活動</p>	<p>専門実践専門課程に相応しいカリキュラムを作成するため、これからの高齢化社会における栄養士・管理栄養士のあるべき姿のイメージ像を描き、将来の「就職」も視野に企業・業界団体との連携を図り、企業等が求める人材ニーズを反映させたものとするを心掛けている。また社会人となったときに、コミュニケーション能力を活かせるよう、授業での少人数制グループワークで「全員参加型の教育」を実施、より具体的な栄養士・管理栄養士像が思い描けるよう、実社会での企業研修である校外実習・臨地実習に重点を置いている。</p>
<p>基準4 教育成果</p>	<p>全ての学生が高い満足度、充実した学校生活を感じて卒業すると共に、卒業生が社会で活躍し貢献することを期待している。授業評価（学生満足度）アンケートを実施し、その結果を教職員にフィードバックしている。管理栄養士科の国家試験対策の充実、高い合格率に表れている。就職に関しては、担任、就職進路課および全教職員が一体となり、学生の夢を叶えるべく、支援体制を強化している。学生のニーズに合った就職先の開拓や、学生個人の適正を把握し、その適正に沿った就職先の斡旋により、多くの学生がその希望により栄養士・管理栄養士の資格を活かせる職域での就職を実現している。キャリアデザインの一環として、就職活動の流れや将来像、履歴書の作成、セルフプロモーション、面接指導や就職活動のマナーなどの指導している。</p> <p>基準4について以下の【質問・提案】があった。</p> <p>【質問・提案】</p> <p>①現状、入学時の基礎学力（化学など）低い学生は、どうしてもその後の基礎栄養学あるいは臨床栄養学がうまく積み重ねられない。</p>

	<p>他大学では、3・4年生になって、応用的な科目で頑張っても基礎の部分で、国家試験の点数が取れず基礎栄養学や食べ物と健康、人体の構造及び疾病の成り立ちなどの点数が低い学生がどうしても出てきてしまっている。それを回避するために、一年時、化学の学力が弱い学生に対しケアするように考えている。短いスパンで、簡単なテストを実施して学生の実力を見極め、成績があまり上がらない学生をまたフォローする。専門学校はある程度目標を持っている学生が来ると思うので、オンラインなどを使いきめ細やかにフォローできるとよいのではないかと。</p> <p>②学校で授業や講演をする、そういった機会があると少し参考になるモデルケースとして、将来像が見えやすくなったり、学校の授業のモチベーションアップに繋がったりすると思ったので、少し卒業生の活用を取り入れてみてはどうか。</p> <p>③オープンキャンパス、入学相談などで在校生の方にイベントを手伝ってもらっているようだが、卒業生にも手伝ってもらい近い未来を想像させられるような機会があってもいいのではないかと。</p> <p>【回答】</p> <p>①管理栄養士科は、間口がだいぶ広く、10回生から80人定員である。しかし、基礎学力が不十分な学生の割合が増えている。勉強の仕方がわからない、同じようにこう授業をやっている、明らかに理解度に差が出てきている状態となっている。国家試験の合格率も、以前は90%だったが、現在は、80%～90%である。アプローチとして、来年度からは1年生、3年生の空き時間に忘れていた科目のフォローの講座、入学者に対して算数や国語レベルの授業を実施していこうと考えている。</p> <p>基礎教育支援委員会の立ち上げを検討する。</p> <p>栄養士科1年：数学、国語</p> <p>管理栄養士科3年：人体、基礎栄養学、栄養士実力認定試験対策（ゼミⅠ）</p> <p>管理栄養士科4年：国家試験対策ゼミ（Ⅰ・Ⅱ）</p> <p>②そのように試みたい。</p> <p>③在校生が率先して協力できる学校づくり、信頼関係構築する。</p>
<p>基準5 学生支援</p>	<p>栄養士・管理栄養士を目指す意欲を喚起し、安心・安全を勉学に励むことが出来るよう支援体制ならびに施設環境を整えている。志半ばでの進路変更や経済的な理由で中途退学する学生がいるため、経済的支援としては、各種奨学金制度をはじめ本校独自の制度として「特待生制度」「教育後援会奨学金制度」「留学生校納金減免制度」を設けている。</p> <p>学生相談については、カウンセラー室を設けており、専任カウンセラーによるカウンセリングを必要とする学生への相談対応を行うなどきめ細やかな学生対応を実施している。</p>

<p>基準6 教育環境</p>	<p>常に充実した施設設備・環境のもと、最高水準の職業実践教育を授け学生の思い・夢・希望を叶えていきたい。校舎の老朽化は否めないが、各校舎の耐震化施工は全て実施済みであり、耐震工事に併せた外観リニューアル、80周年記念事業としての各校舎内装等のリニューアルにより、明るいキャンパスを実現している。防災（地震と火災）訓練を年2回実施し、防災に対する心構えや体制の整備を行っている。</p> <p>基準6について以下の【質問・提案】があった。</p> <p>【質問・提案】</p> <p>①同じ学校・学年・授業内容を聞いているが、オンラインの場合その理解度に差が出ていることを感じている。臨地実習の際には皆さん緊張感を持って本当にテレビでのニュースで取り入れあげられているような、満床で困っている、多くのディスプレイを使って提供しているなど、実際に目の当たりにして、緊張感を持ってくださるケースが多いと思う。また、コロナ禍や診療報酬改定が同時だったが、情報通信機器を使った遠隔、オンラインの栄養指導というところも、実習中に見学などもいただいて、現実を見ていただくにはいい場になっている。</p> <p>②これから在宅栄養士などを育てたいと思っています。自分なりに将来目的も持っている生徒さんもいることに私も関心させられた。そのような状況の中で、やはり学校の支援というところで窓口を設けて、先生が救っていただき、いろんなアドバイスがあれば、生徒さんたちも前向きに目標を持っていけるのではないかと。</p> <p>③就職状況について説明があったが、その現状の中で、何か特徴的なことや、これまではなかった傾向はありますか。</p> <p>【回答】</p> <p>①臨地実習、校外実習は現場の実際を肌で感じる事ができる機会であり、このような状況下においても努力と工夫のもと業務にあたる姿をみることで、職業倫理感が身に着くと考える。</p> <p>③コロナ禍で多くの説明会や一次面接に関しては、ほぼオンラインで行われるという形が定着してきている。コロナが収束してもこの形は続くだろうということが予測される。就職活動がもうこのコロナによって形が変わったと感じる。ただ、企業側としては最後は直接会いたいというところが多くあるようで、最終面接は対面で行っている企業も少なくない。コロナの感染者数が増えてきている状況では対面が難しいというところもあり、今現在は、オンラインという形になっている。</p>
-----------------	--

<p>基準7 学生の募集と受入</p>	<p>栄養士・管理栄養士を目指す意欲ある学生は、是非伝統と歴史と実績のある本校で学んで頂きたい。そのためには、本校のアドミッションポリシーを理解し、真摯な態度で勉学に励むことを望むものである。一人でも多くのオープンキャンパス来校者に出願して頂けるよう、全教職員が魅力ある学校の情報発信に努め、自覚と責任をもって学生募集活動を行う必要がある。</p> <p>本校では入学希望者に学校を知ってもらうために、オープンキャンパスを実施、①学校紹介、②ミニ授業体験、③施設見学、④個別相談等を行っている。参加者のリピート率も高くそれが出願に繋がっている。その他にも学校見学、授業見学等の随時実施している。また入試の形態も多様化している。学院センター広報企画室が関東一円をはじめ甲信越や東北地方での高校訪問や会場ガイダンスなどの広報活動を展開している。高校生から社会人までの様々な入学希望者に対し全教職員が“おもてなし”の気持ちをもって対応できる体制を整えている。</p>
<p>基準8 財務</p>	<p>無借金経営であり中期的な財務基盤は安定しているが、校舎等の老朽化により近い将来の立て直しの検討も必要となる。充実した教育目標に即した経営基盤の強化を達成するために、①定員の確保②退学率の低下に努めている。令和3年度の財務情報は、現在HPで公表中である。</p> <p>基準7について以下の【質問・提案】があった。</p> <p>【質問・提案】</p> <p>①オープンキャンパスの来場者はあまり変わってないが、歩留まりが下がってしまっている原因を考えた方が良くはないか。</p> <p>②大学に入る学生と専門学校に入る学生の管理栄養士課程であっても、明確な違いというのはあると思うので、その軸を変えないようにして行くことが大事なのではないか。</p> <p>③大学との差別化というのは当然、他の専門学校に比べて食糧の優位性が明確になるとよいのではないか。</p> <p>④栄養士、管理栄養士の魅力を発信してオープンキャンパスを1回見てみようかというような変化を与えることで、栄養士、管理栄養士の学校で学びたいという方も多くなると思います。社会人の方たちがもう1度学び直せるような、そういうアピールも必要ではないか</p> <p>⑤学校学院として地域社会の方にも色々奉仕活動もされていらっしゃるかと聞きしていますので、リカレント教育も含めて、取り組んでいただく価値は高いのではないかと感じております。</p> <p>【回答】</p> <p>①歩留まりが悪くなっている理由は、1つ目は模擬授業や、オープンキャンパスに関して、セールストークができてないことがある。栄養士や管理栄養士になるために、授業でやっていることがこういう風に繋がるから必要だということが明確に打ち出しかたができていない。これからは、授業として実施しているというようなストーリー性を持たせることが大事だと考えている。</p> <p>2つ目は、職員が対応する、最後の質疑応答で、何を知りたいのかニーズを聞き出す能力を磨いていかないといけない。参加者の方がどういう風なことを引き出せば、満足をして帰って頂けるのか、考えていかなければならない。気軽に話せる授業の内容と、校内の整備、綺麗に保っておく、これも初心に立ち返って、教職員はそのところで対応していかないといけない。失望させてしまう瞬間は一瞬なので、それがないように、オープンキャンパスの対応というのを考えないといけないと思っている。</p> <p>大体、10人中1~3人が外部からの編入生である。</p> <p>お陰様で、学内での編入希望者が多く定員に達することがある。現状に甘んじないで対策を考えながら進めるべき。</p> <p>④社会的認知度がまだまだ不十分。ターゲットとなる層にフォーカスして、限られた資源を有効に生かせるような努力する。</p>
<p>基準9 法令等の遵守</p>	<p>関係法規を基本とし、法令・設置基準等を遵守している。またISO14001に基づき環境保護等に配慮した教育を行っている。</p>
<p>基準10 社会貢献</p>	<p>教職員は、本校の教育資源を社会貢献や地域貢献に活用できるよう自覚を持って行動している。本校は池尻町内会に所属しており、近隣住民を対象とした健康講話や試食会を行う「街づくり交流会」を毎年開催している。高齢化する地元住民にとって、学校や学生との交流は非常に感謝されている。公開講座としてスキルアップアカデミー講座、長寿健康ベターエイジング研究所主催の各種セミナー、講演会等を定期的実施している。引き続き「食と健康」の情報発信源として社会から高い評価が得られるよう、より一層の努力を継続していきたい。社会貢献活動を通じて地域の皆様の健康増進と健康寿命延伸の一翼を担っていきたい。</p> <p>【質問・提案】</p> <p>卒業生がどういうところで、どういう風に働いているのか、またその後、どういう風になっているか、やはり追跡調査まではいなくても、アンケート調査にするなど、うまく活用できるようなシステム化も必要ではないか。</p> <p>【回答】</p> <p>模索中</p>